

たたかい抜いた4半世紀 さらに災害責任の追及を

遺族会が定期総会開く

十二月二十五日午後一時から、組合事務所で三池遺族会の定期総会を開きました。前回の定期総会は、昭和五十九年十一月二十五日に開いたままで、途中で和解の打診から受け入れまで幾度となく臨時総会を開きましたが、役員改選を伴う定期総会は二年十一ヶ月目に開かれたわけです。

前回の総会から三ヶ月経った六年二月、谷水裁判長から「和解意思の有無」についての打診があり、これを受けるかどうかの真剣な討議の過程で、患者と家族の一部が原告団から離脱しましたが、四月二十一日無記名投票で和解交渉に入ることを決めました。

遺族会としては七月七日の臨時総会で今後のたたかいの意思統一をはかり、公判そのものは十月七日まで一応中断となり、その後は和解交渉に移りましたが、困難があつたと九人の現役員で責任を果たしていくことを決め、今日に至りました。今まで二年連

続が一回ありましたが、およそ三月十七日(11月)の原告団総会で受け入れが決まりました。裁判は和解で決着しましたが、その内訳は遺族にとってきわめです。

不満なものでした。時効問題が大問題を要け入れることを決め、和解金は低額の四百万円、それも五年間延ばされていました。

解案を受け入れることを決め、さくら支出しの無記名投票によ

三井を許せない

その内訳は遺族にとってきわめです。裁判は和解で決着しましたが、この原因となっていて、和解金は低額の四百万円、それも五年間延ばされていました。

和解が正式に成立したので、一年間延ばされていました。CO・遺族協定の改定交渉のたたかいに立上がっています。あくまで責任を追及し、命を守るために、金力をあげなければなりません。部改正して五人制にして監査二人をはかり、公判そのものは十月七日まで一応中断となり、その後は和解交渉に移りましたが、困難があつたと九人の現役員で責任を果たしていくことを決め、今まで二年連

して遺族会として上京団さん、山崎溝口さん、島田さん(10月27日)から永江さん、大坪さん、6人が参加しました。

今回の「協定」改定交渉のために、上京団さん、山崎溝口さん、稻垣さん、島田さん(10月27日)から永江さん、大坪さん、6人が参加しました。

訴からでも十四年、一一九年・二八、上村控訴審の公判回数は八十九回におよびましたが、遺族は積極的に参加しました(金賞の参加記録は総会資料に)。

今回の総会で討議した主な内容の一は、大災害直前の三十八年八月に四山鉱の落盤災害で死亡された前田さん、松本さんの友情原

告としての取り扱いです。提訴当

長旅終えて帰りぬ燃ゆる石掘るの町のかぎり憂いつ頑張ろうの歌懐かしと拳あげてメーテー広場のせよめきに和す柿裏り菊味き満ち家も解かれ石炭置場になりした悼む

曲を纏う爆発現場蘇える団結集会の宴の最中野に沈む陽はかえらねど不滅なりし闇いの灯を老いて君が恋つ

短歌 長き旅

中尾種夫(小浜南)

背景に「双子の赤字」

財子に縁なき人も

ニヨーヨークに統じて東京、ロンドン、ほとんどの世界各国の株式市場で株価の大軒な下落が起っています。一九二九年に始まり、資本主義世界全体をゆさぶった大恐慌の再来を懸念する声も出てきて、財テク、マネーゲーム熱は冷水をあびせられました。

まだ、株暴落の背後には、余り現象の下で、行きすぎたマネーゲームの先行き不安から資金がカネ転がしからモノへと移動する兆が出ており、インフレ再燃のおそれもあります。原油を始め、国債商品市況も上向いており、日本でも建設資材などの急騰が続いている。インフレが起れば、景気回復が遅れ、為替相場も混乱し、貿易摩擦や累積債務問題にも悪い影響が生まれます。

暮らしにも深刻な影響

(永江事務局長)

時総会で、裁判で勝ちといった中、まさしく、遺族会の頭であり心棒からかんぱることを提案し、三人です。二人の息子さんの仇打ちを心の支えとして生きていられたの

に共に就職されたもので、取り扱うことです。討議のあと、カンパを会費か

新役員紹介

(永江事務局長)

時総会で、裁判で勝ちといった中、まさしく、遺族会の頭であり心棒からかんぱすることを提案し、三人です。二人の息子さんの仇打ちを心の支えとして生きていられたの

に共に就職されたもので、取り扱うことです。討議のあと、カンパを会費か

石炭政策と社宅

武松輝男

三池炭鉱社宅の変遷

第十六回

石炭政策と社宅

なんだらう。石炭政策が改策されるとたびに炭鉱労働者が多数災害で死亡するといふことは、いったい何を意味するのだろ。

石炭政策とからみ合った合理化という名前で葬り去られゆくとしている。

石炭政策というのは、いったい何を意味するといふことは、いったい何を意味するといふことは、いったい何を意味するといふことは、いったい何を意味するといふことは、いったい何を意味するといふことは、

なんだらう。石炭政策が改策されるとたびに炭鉱労働者が多数災害で死亡するといふことは、いったい何を意味するのだろ。

石炭政策とからみ合った合理化という名前で葬り去られゆくとしている。

石炭政策とからみ合った合理化という名前で葬り去られゆくとしている。

石炭政策とからみ合った合理化という名前で葬り去られゆくとしている。

次は北炭幌内ガス爆発(五十年)、第七次では北炭夕張新鉱ガス突田(五十六年)、三池有明坑内火災(五十九年)などである。

つい先ほど熊本日日と読売新聞が三池炭鉱の社宅計画を報じてゐる。その中でも、石炭政策に

約六千戸の社宅を三分の一に減らすというのである。

その主な理由と述べている。

現在

石炭政策で殺され続けたといつてゐる。その中でも、石炭政策に

もとづいた(第八次)石炭減産が

その主な理由と述べている。現在

約六千戸の社宅を三分の一に減らすというのである。

前号で記しておいたように、ボタ

ーの新築といふのは、いわば三

池炭鉱の内輪の生産・業務管理の一部変更であった。ところが、六

十代の社宅撤去は、石炭政策と

いふ国家指標にからんだものにな

っている。

炭鉱の歴史が、石炭政策の名の

もとに捨てられようとしている

と言つていいのではないか。炭鉱労働者の生活そのものではない。炭鉱労働者の生活そのものではない。

それがよこのだあいつか。

港社宅の場合と同じように、採掘戦闘と呼ばれていた中国人俘虜の収容所もあった。また、三池炭の生活の歴史を彩った社宅、日本で、四山社宅の撤去が組合へ提案されでいる。

六十二年になると、いよいよ港社宅の場合は、和解が決着しましたが、その特徴であると、強制運行朝鮮人収容所もあり、それを強制的に運行してきた戦時非戦闘員と呼ばれていた中国人俘虜の収容所もあった。また、三池炭鉱の宣撫と掌握と支配の要員は、鉱業の黎明期から敗戦後の混乱狩ガス爆発(四十七年)。第六次

第三次は美唄ガス爆発(四十三年)、平和坑内火災(四十四年)、三井砂川ガス爆発、

第三次は美唄ガス爆発(四十五年)。第四次は茂尻ガス爆発、

第五次は三井砂川災害(四十九年)。第六

次は茂尻ガス爆発(四十年)。第六次は茂尻ガス爆発(四十一年)。第三次は美唄ガス爆発(四十二年)。第四次は美唄ガス爆発(四十三年)。第五次は美唄ガス爆発(四十四年)。

第六次は美唄ガス爆発(四十五年)。

第七次は美唄ガス爆発(四十六年)。

第八次は美唄ガス爆発(四十七年)。

第九次は美唄ガス爆発(四十八年)。

第十次は美唄ガス爆発(四十九年)。

第十一次は美唄ガス爆発(五十一年)。

第十二次は美唄ガス爆発(五十二年)。

第十三次は美唄ガス爆発(五十三年)。

第十四次は美唄ガス爆発(五十四年)。

第十五次は美唄ガス爆発(五十五年)。

第十六次は美唄ガス爆発(五十六年)。

第十七次は美唄ガス爆発(五十七年)。

第十八次は美唄ガス爆発(五十八年)。

第十九次は美唄ガス爆発(五十九年)。

第二十次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十一次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十二次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十三次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十四次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十五次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十六次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十七次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十八次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第二十九次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十一次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十二次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十三次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十四次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十五次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十六次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十七次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十八次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第三十九次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十一次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十二次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十三次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十四次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十五次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十六次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十七次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十八次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第四十九次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十一次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十二次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十三次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十四次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十五次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十六次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十七次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十八次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第五十九次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十一次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十二次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十三次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十四次は美唄ガス爆発(六十一年)。

第六十五次は美唄ガス爆発(六十一年)。</